

1. 単元のねらい

- 英語にも日本語の二字熟語と同じような言葉があることを知る。
- 日本語と英語の発音の違いに気づく。
- 積極的に相手にこれは何かと質問したり、尋ねられたときに答えたりする。
- 雪や冬に関する英語や「これは何」という英語表現に慣れる。

2. 単元の評価規準

- ・英語にも日本語の二字熟語と同じような言葉があることを知り、学んだことや感じたことをノート等を書くことができる。
- ・日本語と英語の発音の違いに気づき、学んだことや感じたことをノート等を書くことができる。
- ・積極的に相手にこれは何かと質問したり、尋ねられた時に答えたりする。
- ・雪や冬に関する英語や「これは何」という英語表現に慣れ学習活動の中で使っている。

3. 単元計画 (外国語活動 4時間)

時数	ねらい	学 習 活 動	評価の観点・留意点等
1	<p>・英語にも日本語の二字熟語と同じような言葉があることを知り、学んだことや感じたことをノート等を書くことができる。</p> <p>・意欲的に活動に取り組むことができる。</p>	<p>○挨拶をする。</p> <p>○Activity1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クイズ①大寒、小寒、小雪を、“What’s this?”と児童に聞き、それが何かを予想して答えさせる。スリー・ヒント・クイズの要領で答えを当てさせる。 ・クイズ②白魔 (はくま)、青女 (せいじょ)、六花 (りっか) を“What’s this?”と児童に聞き、それが何かを予想して答えさせる。スリー・ヒント・クイズの要領で答えを当てさせる。 ・①のクイズは全て「冬」を表す言葉、②のクイズは全て「雪」を表していることを説明する。 ・今回は身近な雪に関連した学習をしていくことを説明する。学習の最後に一人一人が雪や冬に関するものでスリー・ヒント・クイズを出すことを説明する。 <p>○Activity2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5ページの○を見てそれが何かを予想して答えさせる。同じ活動として、雪たんけん館のHP【これなあに?ゲーム(クラスで)】を見て“What’s this?”と児童に聞き、それが何かを予想して答えさせることもできる。 ・雪玉が“snowball”であることのように、英語にも日本語の二字熟語と同じような言葉があることを説明する。 ・単元最後のスリー・ヒント・クイズの英語表現につながるように、指導者は既習の英語表現を使いながら英単語の導入をする。例えば、“muffler”は誰が持ってきているか、何色 	<p>※この活動は杉原先生(新琴似緑小)の実践を参考にした。</p> <p>◆雪たんけん館 HP 「これなあに?ゲーム(クラスで)」 http://yukipro.sap.hokkyodai.ac.jp/english_.html ○意欲的に活動に取り組んでいたか。</p>

1		<p>なのかなど、今まで習った英語表現を使って子どもたちに質問する。</p> <p>○Let's play1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ミッシング・ゲームをする。 <p>【やり方】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 15ページのカードを切り取り、教師が実物投影機を使いそれを映す。 ② 児童に何が移っていたかを覚えさせてから目をつぶらせて1枚だけカードをぬく。 ③ なくなったカードが何であったかを児童に聞く。 ④ ゲームをしながらできるだけカードの英語を繰り返して言い、慣れ親しませるようにする。類似した活動として、雪たんけん館のHP「直感・やまかんゲーム」を見て“What's this?”と児童に聞き、それが何かを予想して答えさせることもできる。 <p>○活動の振り返りをする。</p>	<p>◆雪たんけん館 HP 「直感・やまかんゲーム」 http://yukipro.sap.hokkyodai.ac.jp/english_.html ※意欲的に活動に取り組んでいたか。</p> <p>○英語にも日本語の二字熟語と同じような言葉があることを知り、学んだことや感じたことをノート等を書くことができたか。</p>
2	<p>・日本語と英語の発音の違いに気づき、学んだことや感じたことをノート等を書くことができる。</p> <p>・意欲的に活動に取り組むことができる。</p>	<p>○挨拶をする。</p> <p>○ Let's play2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リズム遊びをする。 ・繰り返しリズムに合わせて英語を言いながら、日本語と英語の発音の違いに気付かせる。 <p>○ Let's play3</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ビンゴ・ゲームをする。 <p>【やり方】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 1, 2, 3, 4のビンゴシートのうち、1つを選ばせる。 ② 教師が言った英語の物に鉛筆で○をつけさせる。1回に1つだけ○をする。 ③ 縦、斜め、横のどれか1列の○がそろったら、「ビンゴ!」と言わせる。その1列の単語を全員で言い確認する。 ④ ビンゴシートを代えて、ゲームを続ける。 <p>○ Let's play4</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ジェスチャー・ゲームをする。 <p>【やり方】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① グループになり、グループ毎に15ページのカードを1組用意する。 ② カードを裏返しにする。またそのカードを切っておく。 ③ じゃんけんなどで順番を決め、1番目の人はカードを他の人に見えるように頭の上にあげる。 	<p>◆雪たんけん館 HP ○意欲的に活動に取り組んでいたか。</p> <p>◆早くビンゴになった児童から1位、2位・・・とし、クラスの人数に合わせて何位までの活動にするのかを決める。</p> <p>○意欲的に活動に取り組んでいたか。</p> <p>◆初めは教師が1番目の子どもの見本を見せるのが望ましい。</p> <p>◆初めはゆっくりと活動をさせ、慣れてきたらグループの人数をそろえて、終わる早さを競わせても楽しい活動となる。</p>

2	<p>④ 1 番目以外の人はそのカードが何を表しているかジェスチャーで示す。</p> <p>⑤ 1 番目の人がジェスチャーに当てはまる英語を答える。当たったらそのカードを机に置き、他のカードは裏返したまま、2 番目の人に渡す。</p> <p>⑥ 2 番目の人も同様にゲームを繰り返す。</p> <p>○Activity3</p> <p>・スリー・ヒント・クイズをする。(ここでは出題者がヒントを提示する場合を示す。)</p> <p>【やり方の例】</p> <p>教師：Hello. ○○’s quiz time. What’s this?</p> <p>児童：Hints, please.</p> <p>教師：White.</p> <p>児童：Hints, please.</p> <p>教師：Two hiragana.</p> <p>児童：Hints, please.</p> <p>教師：もちを食べるジェスチャーをする</p> <p>児童：Mochi!</p> <p>教師：That’s right. 答えを見せる。</p> <p>○Activity4</p> <p>・クイズ大会 (4/4) への説明をする。</p> <p>・雪や冬に関係するものが答えとなるようなクイズを作成することを告げる。また次の時間までにテキスト 1 3 ページのワークシートを完成させるよう指示する。</p> <p>・3つのヒントは子どもたちの意見を聞きながら全体で確認する。</p> <p>【ヒントの例】</p> <p>ーひらがなあるいはカタカナの文字数</p> <p>ージェスチャー</p> <p>ー色</p> <p>ーブラックボックスの中で実際に触れる など</p> <p>・次回はグループで発表練習をすることとする。グループ内ではお互いに解答を共有することとし、4 時間目の本番のクイズ大会ではグループ対グループの発表とする。</p> <p>○活動の振り返りをする。</p>	<p>○意欲的に活動に取り組んでいたか。</p> <p>◆スリー・ヒント・クイズはテキスト 2 ページにあるように出題者がヒントを提示する場合と解答者がヒントになる質問をする場合がある。学級の実態に応じてどちらかを選択する。</p> <p>○意欲的に活動に取り組んでいたか。</p> <p>◆グループは偶数数、グループの人数は 4～5 人が望ましい。</p> <p>○日本語と英語の発音の違いに気づき、学んだことや感じたことをノート等に書くことができたか。</p>
3	<p>○挨拶をする。</p> <p>○Activity2</p> <p>・5 ページの○を見てそれが何かを答えさせる。同じ活動として、雪たんけん館の HP 【これなあに?ゲーム (クラスで)】を見て “What’s this?” と児童に聞き、それが何かを予想して</p>	

<p>3</p>	<p>・積極的に相手にこれは何かと質問したり、尋ねられたときに答えたりする。 ・雪や冬に関する英語や「これは何」という英語表現に慣れ学習活動の中で使っている。</p>	<p>答えさせることもできる。 ・児童を2つのグループに分け、聞く方と答える方の両方の役をさせる。</p> <p>○ Let's play5 ・カード・ゲームをする。 【やり方】 ⑦ グループになり、グループ毎に15ページのカードを1組用意する。 ⑧ カードを裏返しにして混ぜてから、重ねて中央に置く。 ⑨ カードを引く順番をじゃんけんなどで決める。 ⑩ 1番目の児童がカードをめくる。それと同時にグループ全員がその単語を言う。 ⑪ 2番目の児童がカードをめくる。それと同時にグループ全員が1番目のカードの単語を言い、そして2番目のカードの単語を言う。 ⑫ 3番目の児童がカードをめくる。それと同時にグループ全員が1番目のカード、2番目のカード、そして3番目のカードの単語を言う。 ⑬ カードがなくなるまでこれを繰り返す。</p> <p>○Activity5 ・クイズ大会の練習をする。 ・ジェスチャー・ゲームをする。やり方は第2時の活動と同じ。 ・児童のゲームで使用する英語表現については単語のみではなく、答える児童が“What's this?”とグループのメンバーに尋ねるようにする。</p> <p>○クイズ大会(4/4)の練習をする。 ・グループで発表の練習をする。</p> <p>○活動の振り返りをする。</p>	<p>◆初めは教師と何人か児童で見本を見せるのが望ましい。 ◆初めはゆっくりと活動をさせ、慣れてきたらグループの人数をそろえて、終わる早さを競わせても楽しい活動となる。 ◆慣れてきたら児童がカードを引く前に“What's this?”を全員で言うことにより英語表現に慣れ親しむことができる。 ○意欲的に活動に取り組んでいたか。 ○“What's this?”という英語表現に慣れ学習活動の中で使うことができたか。 ◆児童の実態に合わせて、数や色などの英語表現の復習をする。 ○積極的に相手にこれは何かと質問したり、尋ねられたときに答えたりできたか。 ○雪や冬に関する英語や“What's this?”の英語表現に慣れ学習活動の中で使っているか。 ○クイズ大会の練習のことに、友達や自分の頑張りをノート等を書くことができたか。</p>
----------	---	--	--

<p>4</p>	<p>・積極的に相手にこれは何かと質問したり、尋ねられたときに答えたりする。 ・雪や冬に関する英語や「これは何」という英語表現に慣れ学習活動の中で使っている。</p>	<p>○挨拶をする。</p> <p>○Activity2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5ページの○を見てそれが何かを答えさせる。同じ活動として、雪たんけん館のHP【これなあに?ゲーム(クラスで)】を見て“What’s this?”と児童に聞き、それが何かを予想して答えさせることもできる。 ・児童を2つのグループに分け、聞く方と答える方の両方の役をさせる。 <p>○Activity5</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クイズ大会をする。 ・グループ対グループでクイズ大会をさせる。クイズが終わったら違うグループとクイズ大会をする。 <p>○活動の振り返りをする。</p>	<p>◆雪たんけん館 HP 「これなあに?ゲーム(クラスで)」 http://yukipro.sap.hokkyo-dai.ac.jp/english_.html</p> <p>○意欲的に活動に取り組んでいたか。</p> <p>◆いろいろなグループとクイズ大会ができるよう教師の方でローテーションを考えておく。</p> <p>○積極的に相手にこれは何かと質問したり、尋ねられたときに答えたりできたか。</p> <p>○雪や冬に関する英語や“What’s this?”の英語表現に慣れ学習活動の中で使っているか。</p> <p>○クイズ大会について、友達や自分の頑張りをノート等を書くことができたか。</p>
----------	--	--	--